

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度第1回上越市食育推進会議

## 2 議事（公開・非公開の別）

(1) 第3次上越市食育推進計画及び上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について（公開）

(2) その他、食育推進についての意見交換（公開）

## 3 開催日時

令和2年8月19日（水）午後2時から4時

## 4 開催場所

上越市役所 401 会議室

## 5 傍聴人の数

0名

## 6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：内山一晃、小林綾子、柳沢幸也、竹内聖子、森山真紀、岩井文弘、栗間良子、佐々木亜子、渋谷勝（大川委員代理）、早津知祥、星野詩子、松井和代、長井慎也、大山仁、近藤直樹

・事務局：農政課：古澤課長、太田副課長、高橋係長、北山主任、原主事  
健康づくり推進課：坂上上席保健師長、保育課：渡邊副課長、  
上越ものづくり振興センター：勝山副所長、農村振興課：廣田副課長、  
教育総務課：塚田副課長、学校教育課：小林副課長、社会教育課：福山副課長

## 7 発言の内容

### (1) 開会

#### 【高橋係長】

- ・上越市食育推進会議規則の第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告。
- ・上越教育大学の野口委員、同大学食育サークルの北川委員は、昨日、上越教育大学の学生が新型コロナウイルスに感染したとの報道発表を受け、急遽欠席となった。

### 【古澤課長】

- ・上越市食育推進会議委員の改選に伴い、皆様から新たに委員をお引き受けいただき、改めてお礼申し上げます。
- ・当市では、平成 29 年度から令和 3 年度までの 5 年間を計画期間とする、第 3 次上越市食育推進計画を策定し、基本目標に「市民一人ひとりが自らの健康に関心を持って食を選びとっていく力を身につける」ことを掲げ、4 つの基本方針のもと、関係機関の皆様、市民が一体となって、食育の周知・啓発から、実践へと取組を進めてきた。
- ・令和元年度の食育市民アンケートでは、市民の食育に対する関心度は、76.8%で、前年度を上回ったが、目標値には達していない状況である。市では、これまで以上に食育推進活動を充実させ、地域に根付いた継続的な取組を定着させることが重要と考えている。
- ・委員の皆様からは、様々な視点から忌憚のないご意見を頂戴し、それぞれのお立場で、食育活動を実践されている中からご助言、ご指導をいただきたい。

### (2) 委嘱状交付

- ・委員を代表し、内山一晃委員に近藤農林水産部長が委嘱状を交付。任期は令和 2 年 7 月 26 日から 2 年間であることを確認。

### 【高橋係長】

- ・上越市食育推進会議委員名簿に沿って委員紹介。続いて、市食育推進担当課を紹介。

### (3) 会長選出

#### 【高橋係長】

- ・上越市食育推進条例第 7 条第 4 項により、会長を委員の互選により定めるため、委員に発言を求める。
- ・委員から発言がなかったため、事務局案として、会長に上越教育大学大学院教授の野口孝則委員を推薦。出席委員から賛同を得たことから、野口委員を会長とすることを確認。
- ・上越市食育推進会議規則第 2 条第 1 項では、会長が議事運営を行うこととしているが、野口委員が欠席のため、上越市食育推進条例第 7 条第 6 項により、議事運営は、市農林水産部長の近藤委員が行うこととした。

#### (4) 議事

##### ① 第3次上越市食育推進計画及び上越市食育推進実施計画（アクションプラン）について

###### 【近藤委員】

- ・次第の4「第3次上越市食育推進計画及び上越市食育推進実施計画（アクションプラン）」について、事務局から説明願いたい。

###### 【太田副課長】

- ・資料No.1から6により説明（説明省略）

###### 【食育推進担当課副課長】

- ・資料No.7により説明（説明省略）

###### 【近藤委員】

- ・大量な資料を短時間で説明させていただいた。事前配布とは言え、一つ一つをご理解いただくのは困難な状況でもあると思う。ご質問、ご意見等がある場合は発言願いたい。

###### 【岩井委員】

- ・資料No.7の健康づくり推進課のところで質問する。生涯を幾つかの期に分けて、対象に応じた栄養指導や健康指導を行っていると思うが、青年期と壮年期が一緒になっている。青年期と壮年期は幅が広く、人間が成長していく上で、精神的にも、健康的にも、大分違うのではないかと。健康づくりの上で、青年期と壮年期を一緒に指導していくのは、どのような考えなのか教えていただきたい。

###### 【健康づくり推進課 坂上上席保健師長】

- ・青年期・壮年期は確かに幅が広い。青年期は、成長発達が一番ピークを迎える時期で、そこから少しずつ衰えが始まる。当課でも、青年期と壮年期を全て一緒に考えているわけではなく、健診結果に基づき、個別に説明し、保健指導等を行っている。

###### 【近藤委員】

- ・質問の途中ではあるが、15時で内山委員が退出される。この後に意見交換も予定していることから、内山委員が今取組んでおられること、今回の質問も含めて、一言お願いしたい。

###### 【内山委員】

- ・上越医師会の推挙で今回初めてこの会議に出席した。「食育」でまとめると、赤ちゃんから高齢者まで全部含まれることがよく分かった。
- ・私は内科小児科の開業医で、赤ちゃんから高齢者までを見ている。確かに今の議論にあっ

たように、それぞれのステージで、いろいろな問題があり、具合が悪いからすぐ検査をして治療するのではなく、食育を通じて、普段の食事やそれに対する教育で、病気を未然に防いだり、健康寿命を伸ばしたりすることができるのではないかという期待は少しある。

- ・いろいろな課が横断的に関わり、成果的には不十分なのも致し方ないと思し、一生懸命やっているのを見て、本当に感銘を受けた。この会議を通じて、運動がさらに進み、皆さんの理解が上がればいいと思う。

**【近藤委員】**

- ・他に質問はないか。

**【松井委員】**

- ・資料No.3「第3次上越市食育推進計画」の29ページの取組指標で、「1.食育推進ネットワーク（登録会員数）」とあるが、この食育推進ネットワークは、解散したと理解しているが、どのような経緯で解散になったのか。また、この指標はこのまま残すのか。解散であれば、この指標はなくなるのかと思っているが教えていただきたい。

**【北山主任】**

- ・指標である食育推進ネットワークの「上越の食を育む会」は、昨年4月に解散している。解散に至った経緯は、毎年、会の主導で食育フォーラムを開催していたが、開催から10年が経過し、内容検討が難しくなってきたこと、会員が企業、行政機関などで構成されおり、会の事務局の受け手がなかったことが要因である。しかし、今後もお互いに連携しながら食育を推進することで解散している。
- ・事業は、行政だけでなく団体や市民と連携しながら行っており、数値の出し方の検討は必要であるが、指標については、現在残したままとしている。

**② その他、食育推進についての意見交換**

**【近藤委員】**

- ・食育推進についての意見交換をお願いしたい。事務局から説明願いたい。

**【太田副課長】**

- ・本日は、委員改選後初めての会議となり、委員皆様の普段の活動を知るという意味からも、皆様が携わっている食に関する活動や、日常生活において感じておられることをご発言いただき、今後の食育推進計画の策定や事業の参考とさせていただきたい。

### 【近藤委員】

- ・それでは意見交換に入る。事務局から事前に、今取組んでおられることや、感じておられることについて、ご発言をいただくことでお願いをしている。これに合わせ、先ほど説明した資料についてのご意見やご質問もいただければと思う。
- ・さらに、先ほど説明があったように、推進計画は5ヵ年計画で、さらに毎年進めていくのがアクションプランで、毎年見直しをしている。成果指標も幾つか定量的な指標があり、この定量的な指標については、矢印が右肩上がりか、右肩下がりかをご覧いただいたが、全てが上向きになっている状況ではなく、取組全てが成果に繋がっているとは必ずしも言えない状況もある。
- ・アクションプランは、毎年、大きく変えていないところも正直ある。その中で、新しく代わられた委員の皆様から、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 【小林委員】

- ・看護大学で教員をしている。高校を卒業して一人暮らしになる学生がすごく多い。今年は実施できていないが、ここ数年は1年生を対象に、保健所の方から食に関する説明や調理方法を教えていただき、実践してきている。
- ・看護大学では、3、4年生になると実習があり、患者さんに健康な食について説明する機会がある。健康な食の関心は、他の若い世代の方に比べればあると感じる。
- ・外出できない状況で、学生からは、普段よりも家でご飯を作るようになった、お弁当を作って学校に来るようになったと聞く。学生はよく動画を見てご飯を作るようで、動画を活用したレシピなども紹介してもらえると若い世代の人たちは、取組みやすいと感じる。
- ・大学祭では、学生が作った食事を写真に撮り、それをみんなで投票し、順位をつけるものもあり、自分で作って食べることには関心がある。
- ・高校から大学に入り、初めて一人暮らしをする中で、自分でどうやって食事を作るかが、一番学生たちが困るところで、スムーズに移行できるといいと感じる。

### 【柳沢委員】

- ・私は市内の高校を代表して出席している立場から、今ほどお話があったように、高校では「卒業した後の一人暮らしのための食育」と銘打ってはいないが、家庭科の授業や様々な場面で、スキルアップを図ることは各校共通のところだと思っているし、また市の担当課の協力で、高田高校や高田農業高校は、上越教育大学と連携して食育活動を行っている。

- ・高田北城高校は生活文化科があり、食物調理コースでは、地元の食文化の継承などの授業を行っている。このような学校の授業が、上越市食育推進計画にも整合している感触は持っている。
- ・私は、昨年度からこの会議に出席しているが、各担当部局から説明いただいた施策それぞれがとても大切な施策で、すべて指標が上向くように取組んでいる、その姿に感銘を受けている。その多くの施策を束ねることとして、今「食育」という言葉で束ねていると思う。学校も最近数値目標を立てているが、高校の場合は、それぞれの数値目標を束ねた最終的な数値目標があり、高校の場合は進路実現である。
- ・食育についても、個々の施策の数値目標に加えて、それを束ねる4つの基本方針ごとの数値目標が大きな目標になるが、食育の最終目標がどこに置かれているのか。もちろん食育だけの問題ではないが、一つ一つを評価するだけではなく、上位目標が必要な気がする。

#### 【近藤委員】

- ・個別の指標は、一つ一つの施策が達成し得ることと紐づけをした中で、実際に設定したような状況にあり、もう一段上の到達目標は必要なのかもしれない。次期計画を見据えて、事務局でも検討していただきたい。

#### 【竹内委員】

- ・学校という立場で、子どもたちの食について考えた時に、学校給食がいかに素晴らしいものであるかを思わざるをえない。食に関心を持つようなコメントもあり、子どもたちは、地産地消の観点で地元の郷土料理を味あわせていただき、さらに栄養満点で、低価格で提供いただいていることを本当にうれしく思う。
- ・以前、上越市は学校給食で賞をいただきレシピ本が出た。私の娘も気に入り、大学入学時に、そのレシピ本を持っていった。そのぐらい子どもたちにとって、給食は素晴らしいもので、子どもたちも自覚していると思う。
- ・子どもたちの現状を見ていると、食に関して私は二つ気になることがある。一つ目は、朝食で、朝食をとらない子や、単品で、菓子パン1個を食べたとか、うどんをすすってきたなど、何も食べないよりはいいが、そういう状況がある。
- ・二つ目は、夕食を家族ととらない子どもがたくさんいる。これは社会全体のことで、共働きやひとり親の家庭も最近増えている。貧困家庭も気になるところで、社会体育の関係で、夕食がきちんととれない状況もある。子どもたちの食を取り巻く環境は、いろいろな面か

ら考えなくてはいけないと感じている。

- ・上越市で様々な取組をしていることがよく分かった。私も学校現場でこれらを伝えながら、上越市と一緒に、子どもたちの栄養や食生活について考えていきたい。

#### 【森山委員】

- ・保育園では、先ほど保育課からも説明があったように、成長曲線に全園で取組んで3年目になる。保護者にグラフを記入してもらっているが、そちらも定着してきて、目に見えることで、やせ気味なのか、肥満なのかが分かりやすくなり、これを通じ、保護者との会話が生まれてきたことを感じる。
- ・やや肥満傾向のお子さんは、噛まずに飲み込む傾向が多く、離乳食の時から噛む大切さを指導するようにしている。口で表情を見せて、離乳食を食べさせているが、今年はコロナウイルスの影響でマスクをしているため、職員の口の動きを見せてあげられないのが課題で、手の仕草を入れて、噛む大切さを知らせている。
- ・今年は、親子でクッキングが行えないが、野菜の栽培などは例年通り行っている。保護者へは、食育便りや玄関ケージで活動を知らせている。
- ・保育園では、楽しく食べることを目標にしている。こういった状況で、昼食の時間も、おしゃべりをできるだけしないで食べる、あまり声は出せないが、とにかく職員が美味しそうに食べることで取組んでいる。
- ・これからも、食の始まりの子どもたちの食を大切に、楽しく、食は素晴らしいということ、引き続き教えていきたい。

#### 【岩井委員】

- ・私は、各学校を回って、子どもたちの相談に乗ってきた学校カウンセラーである。その中で、上越市の食育の基本目標にもあるように、家庭での食育推進が、社会情勢の変化とともに、だんだんと崩れてきているのではないかと思う。
- ・不登校、いじめ、非行、学力低下等がよく問題になるが、どこに原因があるかを考えた時に、食事の問題と密接に関係があるのではないかと考えている。
- ・家庭の状況では、核家族化が進み、祖父母がいなくなり、支援が得られない。両親も共働きで、朝早くから夜遅くまで働き、子どもの世話ができていない家庭を随分見てきた。その時に、子どもはどうしているかという、前日にパンなどを買って置いて、朝、それをテーブルの上に置いてそれを食べなさいということになる。もっとひどいのは、お金を

渡し何かを買って食べなさいという家庭が結構ある。

- ・子どもは、食事を食べる状態にして出さないと食べない。先ほどの表の中にもあったが、朝食を欠く、夕食も家族と一緒に食べない、そういう子どもが増えていると思うが、幸い上越市の場合は、朝食の欠食率は、数年前から大体平行線でそう増えていない。子ども食堂などは、食べる方を主にした支援が随分多い。学校の家庭科や市の事業でもやっているが、子どもが自分で料理をして食べる指導や支援が必要であると考える。

#### 【栗間委員】

- ・私は、食生活改善推進員を23年間やっている。地域では、健康づくりリーダーや食生活改善推進員、運動普及推進員が集まる場があるが、私の町内では集まりだけで終わっている。もう少し市で後押しし、それら三本柱が地域に戻って活動する場が欲しいと感じる。
- ・私が40歳代の時に、自分1人で町内の人を集めて、保健師、栄養士を呼んで料理をし、皆さんに食べてもらい喜んでもらった記憶がある。それをまた、何らかの形で経験したいと思っている。
- ・私は、料理が好きで、いろいろな勉強会に参加し、季節の料理を仲間とともに作っている。例年、カルチャーセンターで有田地区の食生活改善推進員の1人として、シニアの方の料理を仲間担当している。
- ・県の食育ボランティアとして、県で指定されている品目のチェックを毎月行っている。

#### 【佐々木委員】

- ・JA えちご上越地域ふれあい課では、地域の皆様の心と体の健康づくりのお手伝いの一つに大切な食と農があり、旬のもので、栄養バランスよく食べることや生活のリズムがとても大事だということを根本に事業を行っている。
- ・地産地消の推進と園芸の拡大のきっかけとして、大人向けの活動、子ども向けの活動、あるるん畑での活動があり、大人向けの活動では、女性部を中心に、料理を作るだけでなく、自分で作った野菜を支店や無人販売所で販売することを始めている。
- ・料理教室は、参加者がベテランのお母さん方で、野菜の栄養など、情報が乏しい部分は伝えるが、自分で作った野菜のおいしい食べ方を知っているのはお母さん方で、自信を持って家族のご飯づくりを頑張っていたいただき、若い世代につなげていただきたいと伝えている。
- ・子ども向けの活動では、「ちゃぐりんキッズスクール」を年1回、全体では年4回、各地区で夏休みに実施している。先日は土鍋でご飯を炊いて、おかずを作って食べて工作をす

る予定であったが、コロナウイルス感染症防止のため、土鍋ご飯をスタッフが炊き、参加者からは工作をしてもらった。マスクをしていたが、土鍋ご飯が炊けた香りがマスク越しにして、それはそれでよかった。このような状況の中でできる活動をしていきたい。

- ・子どもには小さい時から本物、旬の野菜のおいしさを知ってもらいたい。私の家は農業ではなく、農協に勤めてとれたての青菜をもらった時に、旬の野菜のおいしさを始めて知った。子どもや大人でも知らない人たちに、旬の野菜のおいしさを広めていきたい。
- ・また、自分で料理を作ることを通して、その材料がどうやってできるか、いろいろな人を経てできている経過も、食を通じて知ってもらいたい。
- ・あるるん畑の活動では、対面販売で旬の野菜やPRしていきたい野菜を紹介している。種のないピーマンや「マー坊なす」という長いナス、種のないパプリカ「ぱぷ丸」などの野菜が出てきている。今は、料理を展示しながらレシピを提供し、お客様とコミュニケーションを図っている。

#### 【大川委員代理（渋谷）】

- ・本日の会議に参加する前に、改めて食育について調べてみた。その中で、食育で身に付けることとして、食べ物を大事にする感謝の心、栄養バランスよく食べること、食事のマナーなどの社会性、食事の重要性や心身の健康、安全や品質など食品を選択する能力、地域の産物や歴史など食文化の理解などが述べられていた。
- ・それらの項目を、弊社が取組んでいる業務と絡めて考えると、一つ目が弊社でこの春から始めているエシカルポイントの仕組みである。セブン-イレブン店内のおにぎり、お弁当の賞味期限、正確には販売期限が近づいた商品を購入した方には、5%分の弊社の電子マネーを付与する形でフードロスの削減に努めている。
- ・二つ目は、本年3月から、清里区、板倉区、牧区の3区内に、月曜日から金曜日までの週5回、移動販売車を出走させている。生活弱者の見守り協定といった形を裾野にしているが、実際はお年寄りだけでなく、学校が休みのお子様が買いに来てくれる。買い物で外出はしたくないが、販売車が来れば買い物はしたいというニーズがあり、我々が移動販売をすることによって、需要と供給が合致し、非常に喜んでいただいている。
- ・地産地消に関しては、2年前のうみがたりオープン時に、弊社も協力させていただき、当時は、杉田味噌店の糀味噌や、メギスを使った商品を開発、発売させていただいた。
- ・秋田県では比内地鶏、富山県ではホタルイカや白エビが、獲るには獲れるが、旅館ないし

は消費者の方に持っていけない。結局廃棄している部分があり、セブン・イレブンで、商品加工してくれないかとの依頼を受けた。その時はおにぎり、パスタといった形で商品開発にこぎつけている。もし今後、上越市内でそういった農家、ないしは漁業の方でお困りの声があれば、ご一報いただきたい。

**【近藤委員】**

- ・早速、ご連絡をさせていただきたい。

**【早津委員】**

- ・上越地域農業者グループ「ひかり」として、昨年度始めて親子料理教室を開催した。料理教室数では、グループに参加している生産者が持ち寄った野菜のみを使い、各グループに生産者を1人組み込み、参加者と生産者が一緒に料理を作る形で実施した。
- ・親御さんからは、普段、子どもはこの野菜を食べないが、自分で作ったら食べたという話をいただき、実際、私たち生産者の顔を見ながら、私たちが作った野菜を調理し、みんなで食べるのがすごくよかった。これを継続してやっていきたい。
- ・今、野菜生産者が少なくなっていて、ひかりグループでも、野菜生産者は2、3年後には私1人になってしまうのではないかというくらい、若手農家の中でも問題視している。そんな中で、自分たちの野菜を食べてもらうことはすごく嬉しい。
- ・先ほど学校給食の話があったが、給食に野菜を出したい生産者が、高田地区に何人かいる。また、高田地区には、給食に出荷していることすら知らない農家がたくさんいる。
- ・私も昨年この話を聞き、農協を通じて給食に野菜を出している。給食に出荷できることを知らない農家がたくさんいるので、上越市全体で情報共有できたらいいと思う。

**【近藤委員】**

- ・給食の自給率はご覧のように、必ずしも高くない状況だと思う。実態として、その野菜の生産が多くない状況があったかと思う。知らない方がいるのであれば、自給率を上げる一つのきっかけになるかもしれない。貴重なご意見なので、事務局はよく覚えていてほしい。

**【星野委員】**

- ・新潟県栄養士会上越支部では初めてこの会に参加させていただいた。今日お話をお聞きし、市で様々な取組がされていること、初めてお聞きする部分もあり、大変勉強になった。
- ・栄養士会員は、現在、上越支部は150名で、病院、学校、福祉、行政、地域活動など、それぞれの現場や職場に携わる仕事をしている。

- ・取組の中では、「おはなしランチ」や「お弁当の日」、「全校弁当の日」を設定しているなど、とてもいい活動をしている。こういった取組を市民や私たち携わる者にも知らせてもらえれば、いろいろなことが協力できると感じた。
- ・私の所属する上越保健所でも、働き盛り世代の健康づくりを重点に、生活習慣病予防や重症化予防に力を入れている。この地域の職場での健診結果では、身体計測については、男性では3割、脂質代謝異常では5割の方に有所見が20歳代で出ている。働き世代は、40歳代から取組むのではなく、若いうちから取組む必要があり、どう取組めばいいかを、皆さんと一緒に考えていけたらと思う。
- ・20歳代からの働きかけとして、市内2校の大学の学生を対象にアンケート調査を実施し、朝食欠食状況、主食・主菜・副菜を揃えた食事の摂取状況、自炊で気をつけていることなどの聞き取りをした。結果的には全国平均と同等で、朝食欠食については2割、主食・主菜・副菜を揃えた食事の摂取は、全国平均と比べて少し低い状況にあった。
- ・自炊については、自炊の継続、バランスがとれたもの、野菜の摂取など、知識は確実に持っているが、なかなか実践できないことが悩みのようなある。そこをどうサポートするか、簡単にできる動画など方策を考えていきたい。

#### 【松井委員】

- ・上越市には総合型スポーツクラブが4つ県に所属しているが、その中の一つ、NPO法人さんわスポーツクラブのクラブマネジャーをしている。
- ・クラブでは、8月の初旬に、アスリート栄養士を迎え、食べて強くなる栄養教室を開催した。主食・主菜・副菜が揃った食事をアスリートも食べていることをアスリート栄養士という新鮮な切り口で伝え、頭に入るようにしている。
- ・今年は、バレーボール部とソフトボール部を支援していて、今年は女子だけであったことから、鉄分不足をテーマに取組んだ。また、違った切り口で、「もしもセブン-イレブンに行ったなら」というテーマで、鉄分不足と感じたら何を選べばいいのかを考えた。鉄分の含まれているヨーグルトや牛乳、ひじきの煮物があった。子どもたちには、自分で食を選んでいく力を付けてもらいたいと思っている。
- ・また、子どもたちには欠食なく過ごしてもらいたい。今年の栄養教室には、欠食者が1人もいなかったため、最初から最後まで先生の話に熱心に聞くことができた。去年の教室では、欠食者が3人いて、話を聞くことができなかった。子どもは、欠食さえしなければ、

一生懸命に話を聞ける力を持っている。食は大事だと感じる。

- ・欠食には、女性の社会進出も関係していると思う。母親が夜勤でいない。母親はちゃんにご飯を作っているが、子どもが遅く起きて、ご飯が食べられない状況もあり、ご飯がどれだけ必要かを子どもたちにずっと訴えかけていきたい。

#### 【長井委員】

- ・柿崎区で農業をしている8人が集まり、「柿崎を食べる会」というグループを作っている。大出口という湧き水があり、その下に綺麗な棚田が広がっているが、高齢化や条件が悪いことで、耕作者が減り、農地が荒れてきている。そういった状況から、みんなで山間部の棚田で農業を始め、地元の酒蔵と一緒に酒米を作っている。
- ・今年で10回目になるが、綺麗な景色を見てもらいたくて、町内にチラシを配って田植え・稲刈りの参加者を募ってやっている。今では、活動が知れ渡り、去年は高田農業高校の食品科学科の生徒や、以前から付き合いのある東京農工大学は、毎年、田植え体験や稲刈り体験に来てもらっていたが、その卒業生がまた田植え体験に来てくれた。
- ・また地元の小学校が、地域を知る授業の中で、田植えに来て、秋には稲刈り体験にも来てもらう予定でいる。
- ・他にも新潟市の飲食店の方とつき合いがあり、毎年田植え・稲刈り体験に来てもらっている。この繋がりから、飲食店の方がこの場所を気に入ってくれて、この場所で穫れたコシヒカリを全量買い取る話をいただき、頑張ってコシヒカリを栽培している。柿崎を知ってもらえるいい話だと思っている。
- ・小学生の田植え体験では、釜戸でお米を炊き、メンバーが作っているイチゴを使ったアイスクリームや地元食材を使ったお汁を食べてもらった。学校の授業でも「柿崎を食べる会」の活動を説明する機会もいただいた。
- ・田んぼの中に入って植える体験をすると、同じお米でもおいしいと思えるし、ご飯を残そうとは思わないと感じている。また、体験を通して楽しい思い出を作ってもらいたい。

#### 【近藤部長】

- ・コロナ禍ではあるが、田植え体験などは、上手く回っているものだと思う。市としても、いろいろな形で、たくさんの方に体験してもらえるよう取り組みたい。

#### 【大山委員】

- ・市では、健康づくり事業に取り組んでいるが、自営業者に対する保険、国民健康保険になる

が、全ての方の健康を把握できない状況もある中で、2年ほど前から健康づくりポイント事業を始めた。食事の改善、体重測定、血圧測定を毎日3ヶ月以上続けている方や、それぞれで取組む内容にポイントを付け、景品を差し上げる取組である。こうした取組が今後、推進計画の中にどのように反映させていくかを考えていかななくてはならない。

- ・それぞれの部署の話聞く中で、なるほどというのあれば、以前とあまり変わらない取組もあると感じた。先ほどの意見にもあったが、少し単発的に感じる部分もある。その中で、総合評価というお話は、まさに私もそのように思うところであり、そうした連携が必要だと思う。予算編成時には、それぞれが意識し連携する取組も必要だと感じている。
- ・新型コロナウイルスに関しては、これからは新しい生活様式を実践しなければならない。場合によっては長引くこともある。新しい生活様式では、食事をする時は同じ方向を向いて食事をする、極力話をしない、時間はあまりかけないなど、今まで議論したことに真っ向から反対するものが出ていて、非常に困惑しているが、このようなことを踏まえ、今後の計画についても、食のイベントや体験活動、食事のあり方について考えていかなければならないと思う。

#### 【近藤部長】

- ・委員の皆様から大変貴重なご意見をいただいた。事務局でよく消化をしていただきたい。
- ・意見交換はこれで終了とする。本日予定の議事は終了となる。進行を事務局にお返しする。

#### (5) その他

特になし

#### (6) 閉会

#### 【高橋係長】

- ・本日いただいた意見は、事務局で検討し、今後の食育推進の施策に反映させていただく。
- ・以上で「令和2年度第1回上越市食育推進会議」を終了とする。

#### 8 問合せ先

農林水産部農政課 TEL : 025-526-5111 (内線 1282)  
E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

#### 9 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。